



## 2019 学年度奨学金申し込み状況

2019 学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士／地区奨励）には、指定校 539 校（「地区を超えた指定校」の重複含む。前年度 534 校）から 1,384 人（1,355 人）が推薦されました。被推薦者の国籍・地域は、中国 50.9%（53.5%）、ベトナム 13.2%（11.7%）、韓国 9.3%（9.4%）、そのほか、台湾、ネパール、マレーシア、インドネシアの順となっています。ベトナムは昨年と同様、申し込み段階で韓国を越えて、国籍別の第 2 位となりました。

被推薦者の奨学金別応募状況は、博士課程 21.2%（20.5%）、修士課程 37.9%（42.7%）、学部課程 38.7%（35.0%）、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、8 地区 13 校から計 32 人の応募がありました。

11 月中旬に各地区へ応募書類を郵送し、1 月末日までに地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、新規・継続合わせて 2019 学年度奨学生 850 人枠（2018 年 11 月現在）が決定します。

## 大学とロータリーとの交流を — 第 2580 地区 —



11 月 8 日、第 2580 地区（東京都）米山奨学委員会が主催する三者懇親会が開催されました。これは、奨学生・カウンセラー・指導教官ら大学関係者が一堂に会し交流を深めるためのもので、今年は総勢 100 人が参加しました。

まず、奨学生とカウンセラーがそれぞれ別室でグループディスカッションを行い、日常の疑問点や奨学生としてやってみたいことなどを話し合っ、グループごとに発表。続いて大学関

係者が合流し、第 2620 地区学友会のラシタ・エリヤーワ・アサンカ会長（スリランカ／2006-07／甲府南 RC：現在同クラブ会員）が、奨学生時代のエピソードや夢を実現する意思を持つ大切さ、学友会活動やロータリアンになること等、現役奨学生たちの模範となる話を披露しました。その後は会場を移し、指導教官とカウンセラーが飲食を共にしながら奨学生の日常について話し合ったり、奨学生がひと言スピーチをしたりしました。

同地区の比留間孝司委員長は「奨学生やカウンセラーがそれぞれ顔を合わせて意見交換するだけでなく、大学関係者と交流できる意義は非常に大きい。当地区の伝統としてこれからも続けていきたい」と、話しました。

## 寄付金速報 — 米山月間のご支援に感謝いたします —

10 月までの寄付金は前年同期と比べて 4.4% 減（普通寄付金：0.3% 増、特別寄付金：7.6% 減）約 2,480 万円の減少となりました。前年度が当財団設立 50 周年ということもあり、前年度比では減少幅が大きくなっていますが、寄付

累計額としてはほぼ例年並みで推移しています。学友、ロータリアンの皆様からのご寄付に心より厚く御礼申し上げます。上期も残り 2 ヶ月を切りましたが、今後ともご協力賜りますようお願いいたします。

## ホームカミングで来日！学友が地区大会スピーチ

**第2780地区** 10月14日、茅ヶ崎市で開催された第2780地区（神奈川県）の地区大会2日目本会議で、台湾米山学友の徐重仁さん（1976-77／平塚RC／台北東海RC創立会長）が25分間の記念講演を行いました。日本留学中に会ったコンビニエンスストアを台湾に初めて導入し、“台湾流通業の父”と呼ばれる徐さんのこれまでの軌跡と感謝の思いのこもったスピーチに、会場からは惜しめない拍手が送られました。



また当日は、友愛コーナーに「米山お茶サービス」の広いブースが設けられ、奨学生・学

友がそれぞれの母国のお茶やお菓子でロータリアンをもてなし、大盛況でした。

**第2550地区** 10月28日、栃木県宇都宮市で開催された地区大会本会議で、カンボジアから来日した米山学友、サ・ソチアさん（2009-11／宇都宮東RC）がスピーチをしました。ソチアさんは母国パニヤストラ大学で教鞭をとる傍ら、日本語・ビジネス研修センター所長をつとめています。将来はカンボジアに米山学友会、また、ロータリークラブを設立したいと目標を語り、会場から大きな拍手を受けました。なお、会場外では、現役奨学生の研究内容をまとめたパネル展示があり、ロータリアンは次々と足を止めて、奨学生たちの説明に耳を傾けていました。



この「研究発表」は今年で3年目、奨学生同士にとっても互いに良い刺激になっているということです。

## 田中作次奨学金 — ミャンマー米山学友会 —

ミャンマー米山学友会では、元国際ロータリー会長の田中作次氏からの寄付金を基金とし、「田中作次奨学金」を設立して、日本語を学ぶミャンマーの貧しい学生へ奨学支援をしています。

10月14日、2年目となる同奨学金の贈呈式がKyoshin JETC日本語学校で行われ、今年は4つの日本語学校で学ぶ学生15人に、1人20万チャット（約14,500円）が授与されまし

た。第1期生の中には、実習生として、また介護福祉士を目指して来日したり、学友が経営する日本語学校で働くなど日本に関わる夢に向かって進んでいるとのことです。



もうすぐ締切

普通寄付金 申告用領収書の申請は11月末まで！

普通寄付金分の確定申告用領収証の申請期限は11月30日です。当会ホームページのメニュー、

**寄付金について** → 「普通寄付金：申告用領収書の申請はこちら」からお手続きください。

特別寄付金については来年1月下旬、自動的にクラブ経由で送付されますので申請はご不要です。